科目名	コンピュータ概論 B　　Introduction to Computing B						
科目担当者	森田 英二　　MORITA Eiji						
単位数	2	配当年次	1 年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［総合教育科目　情報］ 経営学部・経営学科［総合教育科目　情報］					ディプロマポリシーとの関連	(1)(3)
授業の概要	現在、私たちの身の回りにはコンピュータをはじめとした情報機器が氾濫しており、情報機器を含む広い意味での情報技術(IT)の普及は、ビジネス業務やオフィス環境を大きく変化させてきた。また、そのような状況に対応して、企業では情報技術を十分に活用できる知識や技術を持った人材が必要となっている。 以上を踏まえて、本講義ではパーソナルコンピュータの操作・活用における基礎的知識と技能および情報社会に主体的に関わる姿勢などの評価について体系的に講義する。 また、特論として情報に関するさまざまなテーマを取り上げて視野を広げていく。						
授業の到達目標	①柔軟に判断できる情報活用能力を身に付ける。 ②基幹業務システムの構築や運用、保守、管理といった応用力を養う。 ③「情報」を幅広い視点で見られるようになること。						

授業計画・内容		
	1	(1)ソフトウェアの種類と利用法 (2)プレゼンテーションソフト
	2	(1)データベースソフトの機能と活用 (2)各種アプリケーションソフト
	3	表計算ソフトの仕組み
	4	表計算ソフトの活用
	5	(1)情報通信技術の進展 (2)ビジネスにおける情報化
	6	社会と個人生活における情報化
	7	(1)情報ネットワーク社会の諸問題 (2)知的財産権
	8	情報モラルとネットワークセキュリティ
	9	コンピュータセキュリティ
	10	特論（服飾との関係）
	11	特論（観光との関係）
	12	特論（音楽との関係）
	13	特論（人工知能との関係）
	14	総合問題演習
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	毎回、テキストの学習範囲を熟読し、情報分野の専門用語の意味を理解しておくこと（毎週 2 時間程度)。
授業外学修 (事後学修)	毎回、授業内容を全て復習して、不明な点があれば調べておくこと（毎週 2 時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	定期試験 授業中の課題提出	60% 40%	①、②、③ ①、②

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	㈶職業教育・キャリア教育財団 監修『J 検情報活用 1 級・2 級完全対策公式テキスト』 日本能率協会マネジメントセンター
参考文献	なし
その他	＜望ましい受講生＞ 情報分野の基本となる学習内容なので、初学者や基礎から学びたい学生が対象となる。また、コンピュータ概論 B については、コンピュータ概論 A を習得した後に履修することが望ましい。 ＜事前または併行して受講してほしい科目＞ 「情報処理応用」「情報倫理」